



春風学級の取組の一環として、三木市「ありがとう人権教育サポーター」の春川政信先生にお越しいただき、「みんなが笑顔になるために～差別やいじめをしない・させない・ゆるさない～」をテーマに、5・6年生を対象にお話をさせていただきました。

- ・エレベーターのボタンに隠された秘密、思いやり
- ・誰が見ていなくてもダメなことはダメ
- ・いじめはどこにでもある。許さず、なくしていくことが大事
- ・他の人と自分を同時に大切にする
- ・感謝の心で生きる「当たり前でなくありがとうの心で」

など、子どもたちの身近にある出来事を例に挙げながらお話してくださったので、先生の言葉1つ1つが子どもたちの心に届いて

いくのを感じました。今後も、人権学習を進めていく子ども達にとって、大変貴重な時間になりました。そして、正しいことを知り、知るで、とどまらずに、実行していくことの大切さを伝えていただきました。

子どもたちは、これからの行動にどう生かしていくかを考えながら聞くことができました。



### 感想



春川先生の話の中で、自分の生活の中でありえるいじめや差別の話がありました。人を見ただ目で判断したり、その相手がいないところで悪口を言ったり、その人にだけ秘密にしたり、私自身も体験したこともあって、実際に嫌だったし、怖かった。そういう行動をしている人には、自分がされたいやじゃないのかな?とも思った。人が嫌がる行動をする人が減ったらいいと思ったし、自分もしないように気をつけたい。

春川先生の話聞いて、一番心に残ったのは、ダメなところはダメというところです。子どもに正しいことを教えるために、お母さんが正しいことを言ってあげないといけないのにそのお母さんが、「怒られるからやってはダメ。」という叱り方をしたら、だれが正しく教えてあげるの?という話になります。最後に言われていた、人にされて嫌なことは人にしないこと、いじめや差別を許さないこと、コロナの場面での思いやり、自分を大切にするのと同時に人も大切にするのが大事と言われたことも心に残りました。

「ありがとう」「ごめんなさい」を素直に言える、そんな小さなことの積み重ねが、人や自分を大切にするにつなげていくのだと思います。そして、ただ言うだけ、知るだけでは、意味がなく、自分から行動して実行していきたいです。

差別などのことを人まかせや他人事のように思うことは、間違っていると思います。他人事と思っているのは、差別しているのとほぼ同じだと思います。他人事と思っていると差別はおさまらないと思います。自分が動かないことで、人をいつの間にか傷つけているかもしれません。気づくことが大切です。そのままほっておくのではなく、気づいて考える、そして実行することが大切です。自分が「これはだめだ」と気づくことで、一人でも救えるかもしれない。これからは、悪いと思ったら、大人、子ども関係なく注意できるようにしたい。